



発行所
全国曹洞宗青年会
〒105 東京都港区2-5-2
曹洞宗本務所内
発行責任者 木南 広峰
TEL. 03-3454 5411 (代)

全国僧侶のエネルギーを結集しよう
社会的価値ある活動をしよう
青年僧侶の自覚を促そう
地域における活動の連携を深めよう

祝

釈尊 貳阡伍百伍拾八歳

顧問 伊藤 道宣

『昔も昔三千年』

花咲き匂う春八日

響き渡った一声は

点にも地にも我独り

昭和三十六年四月、私は全校生徒二百人足らずの小学校に入学しました。

一週間後、リヤカーに乗せられた張子の白象の後ろを、この歌を大声で歌いながら、村中を巡った思い出が有ります。

おらかな農村の事、幣師の申し出に学校は休日となり、全校生徒が法輪を型取った「普濟寺仏教少年団」のバッチを胸に胸に付け、村中を練り歩くのです。

先頭を行く幣師は、当時若十三三歳すでに八年目の行事だった筈です。

今、自分が当時の師匠の歳を感え、同級生に「あの時の歌、覚えてるか」と問い「知ってる、知ってる」と言う答えを聞く時、あらためて幣師の「大衆教化」に対する情熱とその成果に、只々驚嘆するばかりでありました。

あれから二十年。社会情勢も交通事情も価値観すらも大きく変貌している今日。当時のあの光景を再現する事は、到底不可能な事でありましょう。しかしその中で、今期執行部により打ち出された「花まつりキャンペーン」の企画に対し、私は絶賛の拍手を贈ります。



嫉まぬ様に・・・

「キリストさんはいいよな、忘年会の時期と重なるし、雪なんか降れば様になるし、降誕会も盛り上がるよな……」

冗談じゃねえ、南半球じゃ、真夏の炎熱の中、サンタクロースがサーフィンに乗ってやってくるんです。それでもクリスマスはクリスマスなんです。それに比べれば、世の中は新年度を迎え、北海道や東北では、花咲き匂う春八日……と迄は言い難いかも知れませんが、それでも樹々の芽膨らむ好時節。

四月八日は希望の時なんです。

焦らぬ様に・・・

現在、どの教科書、どの年鑑等の宗教分布図を視ても、日本は仏教国、及び民族信仰の国とされています。にも関わらず、バレンタインデー、ハロウィンデュー、挙げ句の果ては年末のクリスマス馬鹿騒ぎ……。仏教者としてはあまり好ましい光景とは言えません。

しかしここで考えなければならぬ事があります。それは我々は何時も、活動に対する成果を焦り過ぎてはいませんかと言う事です。

現在、日本に於いて行われているクリスマススの行事は、戦後、物資欠乏の中だからこそ敢て、キリストの降誕会に因み、プレゼントを交換しあい、心を暖め合おうと、一部のキリスト教徒の呼びかけにより興った行事で有ると、聞いております。

爾来、今日に至る迄、約半世紀の歴史を有しているの有ります。

全曹青は本年初めて、全国生花商組合とタイアップして「花まつりキャンペーン」を実施したばかりで有ります。花まつりに花を贈り合う……と言う意識が社会に定着する迄には、まだまだ永い時間を必要とする事でしょう。しかしそれは、或程度、生花商組合の企業努力に期待していればいい事では有りません。問題は、この、花まつりに花を贈り合うと言う意識を、如何に宗教的行事として発展させ、浸透させて行くかという点に有ります。これが成功して初めて「全曹青と生花商組合のタイアップ」ではないでしょうか。

皮肉と言うか、その後日本のクリスマスは、経済社会の高度成長期を経、精神文化不在の飽食の時代と言われる今日に至り、宗教的意味合いは殆ど忘れさら

目次

- 花まつりキャンペーン……………(1)
- 第11回禅文化学林……………(2)
- 愛三曹青会設立十五周年記念大会……………(3)
- 寺院コンピュータ報告……………(4)

貰ったプレゼントをそのまま質に流す族まで現れる状況となつていくと聞きおびます。一部を除き、只のお祭りとしたクリスマススの轍を踏まない為、我々はどうしたらいいのか……。

似合わぬ事は無理をせず・・・

キャンベーン中、花屋の前でポスターを見ている中学生に聞きました。「何で四月八日が「しあわせの日」なんだよ。しあわせの日ってエのは、平成四年四月四日の事じゃねえのか……」

「知らねえよ」

「馬鹿だね、おめえは。四月八日つうのはゴロ合わせで、ホントはお釈迦さんの誕生日で「花まつり」つうんだ。だから花屋に貼ってあんだろ。一つ賢くなつたら、照れずに彼女に薔薇の花でも贈つてやんな。中でカード呉つから。」

私には四月八日に檀信徒を集め、降誕会説教をする程の能力も、学識も有りません。しかし何にも知らない彼等に、彼等に近い言葉で「四月八日は釈尊降誕会である……。」と言う事は布教出来ませぬ。

人の心を

見つめ続ける・・・

二十年前、私と一緒に大声で花まつりの歌を歌い、今でも覚えていてくれる同級生が「天上天下唯我独尊」の意味を理

解しているとは到底思えませぬ。しかしこの花まつりキャンペーンが、何時か社会的宗教行事として実を結び、その同級生が子供に、あるいは孫に、あの花まつりの歌を歌って聞かせて呉れたとしたら、幣師の布教は、人の心に見事に生き続けたと言えないでしょうか。



時代遅れの

布教師になりたい・・・

三年前、私は所信表明の中で「全曹青百年の大計の為、その布石たらん」と會員諸兄に御約束しました。そして何時も二言目には「継続」と言う言葉を口に出来ませんでした。今回の「花まつりキャンペーン」について、私はこの程度の御手伝いしか出来ませんでした。しかしこんな小さな事の積み重ねで、この花まつりキャンペーンが継続され、何時か愚弟に幣師の熱意を伝える事が出来たとしたら四月八日は私にとって本当の「しあわせの日」となるので有りましょう。

「そんな事を言っちゃ、時代から取り残されちゃうぞ……。」と言われる大兄が有るならば、私は申し上げませぬ。真実に時代の先取りはなく、真実に時代遅れはない。故に、敢て、私は……

破草鞋

数年前のベストセラー「四十一歳寿命説」という本があった。食品添加物や食の環境その他によって、昭和三十四年以降に生まれた日本人は四十一歳以上生きる事が困難であるという内容であった。確かにシヨックキングな内容ではあったが、飽食の時代と呼ばれる現代をとってもインスタント食品と添加物が日本中を席巻してきた、これまでの歩みをとつても、ある意味では納得できる所もあった。その著者である西丸震也氏が前著に続く第二弾として「人生密度7年説」という本を著した。内容全体に触れるスペースは無いが前著への反論に対しての追証、反証部分を除いては長寿社会に期待できない現在、残された時間を如何に充実した姿勢で生きてゆく為の心構えを説いた部分が多い。「短命化社会の(生と死)を組み立てる」のサブタイトルが指し示す内容やその姿勢は各自お読み頂くと、ここで問題としたいのは、その様な生と死の問題を人々に説くべきは本来誰の仕事であったのかという点である。心理学者が生きてゆく為の心の保ち方を説く事は多い。しかし西丸氏にせよ数年前に話題になった森政弘氏(特に氏は道元禅を中心に考える)にせよ科学畑の出である。出は何処であれ、生き方の問題に対しての答への渴望があるから著書が読まれるのだ。何故、渴望に対しての潤いをお寺に求めてくれないのだろうか。逆に我々は人々が如何に渴えているのかを真剣に考えているだろうか。著者に対してだけでなく社会で痛めつけられている同級生の痛みを耳を傾けているだろうか。7年の充実だけでなく、死亡率百分の人生の充実に対する仏の智慧を我々は持っている筈なのだから。

第11回禅文化学林

アメリカにおける禅を訪ねて

ロスアンゼルス サンフランシスコ 7日間

1992年11月9日(月)~11月15日(日)



全国曹洞宗青年会 会長 木南広峰九拜

全国曹洞宗青年会が一大研修事業として創設以来継続開催して参りました「禅文化学林」も今回で十一回目を迎える事になりました。

今回の禅文化学林は新大陸発見五百年に合わせ「アメリカに於ける禅を訪ねて」をテーマに、アメリカ西海岸、サンフランシスコ及びロス・アンジェルス禅センターでの研修を計画致しました。

二十世紀も終わりを告げようとして、現在もお、主義主張の相違、民族独立の名の下に、世界各地で流血が繰り返されています。そして経済の不均等は戦後最も親密な関係と言われて来た日米間に於ても「経済摩擦」「日本叩き」と言う言葉を生むに至って居ります。

彼のジョン・レノン未亡人オノ・ヨーコ女史はこの状況を「1940年代初期アメリカに在った日本人として、今の日米関係は、大戦直前のそれと全く同じである」と危惧されています。彼女の言葉に異様な説得力があるのは「1940年代初期アメリカに在った日本人として」と言う経験にもとずいた一言に尽きます。

我々は今日日本にあって、唯手を携えているのではなく、真つ先に現地に渡り彼等が「禅」に何を求めたかというところから、そのニーズに答えるべく人類共通の財産として「道元禅」を布教教化して行く事が、青年宗侶としての責任であり、且つ世界平和の礎であると思ひます。

「大衆教化の接点を求めて」はなにも国内に限ったものではなく、その意味に於いても今回の禅文化学林は単に自己研修としての目的のみに留まらず、増信徒を含めた世界平和の為の「仏教使節団」としての使命をもって御参加戴き、以後その経験を布教教化に活かして戴きたいと存じます。多数の参加を心よりお待ちしております。

ロスアンゼルス 禅センター

昭和四二年、前角博雄老師がアメリカ人を対象に坐禅会を始めたのがはじまり。現在は山中に中心をうつつし活動し、ニューヨーク、サンディエゴなどにも支部を置いている。

サンフランシスコ 禅センター

一九五八年桑港寺六世故鈴木俊隆老師によつて創立され、現在ではサンフランシスコ周辺の禅の中心の道場となつている。他にカーメルバリー・タサハラに禅マウンテンセンター禅心寺、サンフランシスコ北部にグリーンガルチ農場禅センターを運営している。

北米別院 禅宗寺

大正十一年(一九二二年)、故磯部峰仙老師により建立された。日本人町の中に位置し、教会形式の本堂をなしている。一、〇〇〇人程の日系人を対象に参禅会や、日曜学校、カーニバルを催し、好評を博している。アメリカ本土の開教総監部がおかれ、アメリカ曹洞宗の布教の中心をなしている。

日米山 桑港寺

昭和九年(一九三四年)、羅府(L.A.)禅宗寺開山、故磯部峰仙老師により曹洞宗の法備をかかげた。日本人街の一画に位置し信仰と布教宣揚の道場として今日に至っている。現在一世、二世を中心に約六〇名のメンバーによつて支えられ、日曜礼拝・参禅会・各種教室を催し、多くの人々に親しまれている。創立と同時にユダヤ教会跡を購入し、布教活動にあつたつていたが、祖国を想う一世達の念願のもとに日本式寺院の建立との発願により計画が進められ、昭和五十九年(一九八四年)四月、丹羽廉芳貫首現下(当時副貫首)御親修のもとに盛大に落慶・入仏式が挙行された。

〔旅程表〕

No.	月日 Date	曜日 Day	都 市 名 City	現地時間 Local Time	交通機関 Trans- Bortation	摘 要 Remarks	食 事 Meals		
							朝	昼	夕
1	11/9	(月)	成田空港	16:45	U A890 便	結団式 出国手続き後ロスアンゼルスへ (国際日付変更線)			機内
			ロスアンゼルス空港 ロスアンゼルス市内	10:45	専用バス	入国手続き後市内見学 ハリウッド、オルペラ街、ピバリーヒルズ等 (ロスアンゼルス市内泊)	機内	市内	市内
2	/10	(火)	ロスアンゼルス滞在		専用バス	禅文化学林開講(午前中) 於、禅宗寺 午後 自主研修 (ロスアンゼルス市内泊)	ホテル	市内	
3	/11	(水)	ロスアンゼルス滞在			終日 自主研修 (ロスアンゼルス市内泊)	ホテル		
4	/12	(木)	ロスアンゼルス空港 サンフランシスコ空港	14:00 15:20	UA1114便	午前中: 仏真寺・禅センター拝登 昼食後国内線にてサンフランシスコへ (サンフランシスコ市内泊)	ホテル	市内	市内
5	/13	(金)	サンフランシスコ滞在		専用バス	桑港寺、禅センター拝登及び市内見学、ゴールデンゲイトブリッジ、フィッシャーマンズワーフ、UCLA等 (サンフランシスコ市内泊)	ホテル	市内	市内
6	/14	(土)	サンフランシスコ空港	14:10	専用バス UA 837 便	出国手続き後成田へ (機内泊)	ホテル	空港	機内
7	/15	(日)	成田空港	16:55		入国手続き後解団		機内	

※都合により日程が変更になる場合があります。ご了承下さい。

愛三曹青会設立15周年記念大会

「いま、親の慈愛とは……」

私たち、愛知第三曹青会は、去る平成四年二月二十九日、愛知県半田市の半田市福祉文化会館において、設立十五周年記念大会を開催することができました。大会のテーマを「いま、親の慈愛（やさしさ）」とし、第一部を、坐禅の仕方、児童教育の吉岡たすく先生による講演、第二部には、元ゴダイゴのボーカルで一男五女の父親でもあるタケカワユキヒデ氏のコンサートを企画したものです。



このテーマ、内容からわかるように、対象を青年会員と同世代の三十代から四十代の子育てをしている方々と設定しました。

このテーマ決定の出発点は、自分たちにとっても身近な問題であるということと同時に衆生教化の接点として、同じ問題をもつ方たちと、仏教という枠をはずして一緒に考えてみたいということとあります。

これまで、愛三曹青会の先輩諸師は、設立五周年における大会（オーケストラによるコンサート）十周年における『叢林』発行と、着実な、また、私たち後輩の指標とすべき活発な活動を行ってこられました。

今回の十五周年記念大会は、その活動の後に続くべく、今の愛三曹青は、何かをしなければならぬ、では、何がやりたいのか、何ができるのか、の問題提起からはじまっています。

しかし、全国どの曹青会でも同様であるかとは思いますが、スムーズに事が運ぶだとはいえません。はじめ、執行部より具体的な原案が

提示されたのは、昨年六月の月例研修会の後であったと記憶しております。

その内容は、ほぼ原案のとおり支持され、以後の進行を執行部に一任することが承認されました。

反対や修正の意見がなかったというよりは、その場では発言されなかったというのが正しいようです。

意見が出されなかった原因は、現在の役員が、このような大きな行事を主催したことがないこと、そして、それぞれが傍観者を決め込み、私案、腹案をもたなかったこととあります。

また、一曹青会にとっては、大事業であるこのような大会を実行に移すには、会長他、執行部の強引ともいえる指導力が、不可欠であったとも思われますが、そのなかでも、大会開催に向けての、会員の意志決定は十分なものといえませんでした。

当初、会員の個別な意見交換のなかでよくいわれていたことは、根本的に、このような記念大会を実施する必要があるのか、ということでした。

大会開催のためには、多数の費用をねん出する必要がありますが、その大半を管内各寺院よりの助成金をあてるよう計画されました。

人の財布をあてにした大会、曹青会としてやるべきことは、他にあるのではないのか等々、会の内外より、再三きかれた意見です。

また、大会プログラムが、坐禅指導、講演、コンサートであるということは、坐禅を除けば、曹青の行事として行う意味があるのか、との意見もありました。

これらのような意見は、「ならば、どうする」という建設的なものが含まれない以上、曹青会員としては、無責任であるともいえませんが、一任を受けた執行部などにおいても、細事の決定や途中経過の報告などにおいて、その責任を果たしたとはいえません。

ともあれ、諸期における会員の意志統一が、如何に重要であったかを痛感しました。

また、その他の問題として、当日の来場者の把握がありました。

会場の収容人員は千三百名ですが、防

災上の規定により、それ以上の入場は許可されません。つまり、立ち見ができないということとあります。

なるべく多くの来場を期待していましたが、かといって千三百の人数を越えれば、入場できないことになってしまいます。

それには、管内各寺院に、大会のポスターの掲示と大会への勧誘をお願いし、各教区幹事により、頻繁に参加人数の確認をさせて頂き対処しました。

ただ、教区により、曹青会への認知に差があり、幹事によって掌握の度合に、ばらつきが生じたことも事実です。

この点に関しては、今後の活動のなかで、曹青会を認めて頂くより方法がありません。

尚、ポスターは特別に大きなものを用意しましたが、掲示板に入らないなどの指摘があり、今後一考を要します。

一般への広報としては、新聞への広告掲載、会場付近でのビラ配りなどでしたが、やはり、各会員が権信徒に直接案内することが、最も有効であり、大会の主旨からいっても、それを実行したことはいうまでもありません。



かけたことをつけ加えておきます。さて、このような状況のなかで、記念大会が開催されました。

鈴木芳巳会長の挨拶のあと、「坐禅の仕方」として、実際に家庭でも行うことができるようにと、リーフレットのイラスト入りの解説を見て頂きながら、足の組み方から指導を行い、椅子坐禅を行いました。

つづいての、吉岡たすく先生による「教育よもやまばなし」私の見た子供の世界」と題する講演は、内容、活術ともに、入場者全員のところを引きつけ、それぞれに大いに得るところがありました。

そして、タケカワユキヒデ氏によるコンサート。

曹青会の行事であるため、高齢の入場者も多く、巨大なスピーカーからの音響に、最初はとまどった様子もありましたが徐々に拍手が大きくなり、高齢の方が、体でリズムをとる姿も見受けられました。

ただ、音の大きさに驚いて、あわてて退席された方もありましたので、高齢者の参加にも留意する必要があるとしました。

そして、渡辺祥元大会実行委員長の挨拶により、全日程を終了しました。

この記念大会は成功したのか、失敗したのか、それは、愛三曹青会員が、それぞれのなかで結論します。

ただ、大会前日及び当日、愛三曹青会員のほぼ全員が、参加したことを特記します。

何かをしなければならなかった、その理由をここで見つけることができました。

記念大会開催にあたり、多くのご援助ご助言を頂いた、宗務所、管内寺院、そして知三会の皆様ありがとうございました。

大会にお力をお貸し頂いた吉岡先生、タケカワ氏、スタッフの皆様ありがとうございました。

そして、ご来場頂いた数多くの方々、本当にありがとうございました。

最後に、大会開催に尽力された、鈴木会、渡辺実行委員長の労をねぎらって報告をおわります。

大会事務局 竹内 俊英

大会事務局 竹内 俊英

（禅文化講座）
禅へのいざない
全四巻
曹洞宗青年会 編
B六判 並製函入
各巻平均二八〇頁
定価一〇、〇〇〇円
（分売致しません）

曹洞宗青年会が綿密に企画し、禅の歴史と思想を分かりやすく解説布教活動の貴重なハンドブック!!

- 第一巻 インド仏教と禅定
- 第二巻 中国仏教と禅
- 第三巻 日本仏教と禅
- 第四巻 現代社会と禅

「禅へのいざない」曹青会員価格のお知らせ

- 専用振替用紙で前金の御注文の場合に限り1セット9,000円にて頒布致します。振替用紙は大東出版社まで御請求下さい。
- 尚その際、荷造費・送料として1回のお申し込みにつき、1律400円申し受けます。本広告掲載の他の書籍と一緒に御注文いただいても、送料合計は400円です。

振替口座 名古屋 3-53719 曹洞宗青年会出版部

表示の価格は全て税込

目録 図書

株式会社 大東出版社
〒113 東京都文京区白山一丁目一〇番三
TEL 03-3826-7070 FAX 03-3826-7076

寺院コンピュータ見聞録

前号で税務署の各寺院に関する収入の予測等を記載しましたが、それをお読みになったご住職方は自分の寺では、そんなに収入がないとお考えの方が多くおられると思われまます。

そこでその収入が少ないことを証明しなければならぬということになります。今号ではその一番の証拠になる寺の発行する領収書にふれてみたい。

領収書使用の勧め

私が全国の寺院にコンピュータの販売について商談を進めて行くにあたって、どうしても会計の問題に触れなければならぬ状況になります。

収入・支出に関する提示証拠書類が必要になってきます。支出に関しては、業者の発行する領収書を作成することで十分にその証拠書類を作成することができますが、収入に関しては色々トラブルが発生することが多いようです。

そこで、この問題の一番の解決策は寺院が領収書を発行することで、全て解決できる訳なのです。しかし地方寺院の多くの方々は、寺が領収書を発行することに、大変抵抗を感じる様です。

東京の寺院では真新しい領収書の束が寺院事務所に積み上げられていることに出会いますが、東京の寺院にとって、当然のことの感で実行している寺院が多いうです。これは、税務指導の実施が地方寺院よりも、早くから行われていることによるものと考えられます。

大切な檀家が・・・

しかし、多くの寺院では、仏教雑誌等によく見かける記事のように、税務署員

が寺院の帳簿を信じず、檀家の申告を信じる等多くのトラブルがあることを聞き、住職に領収書の使用を勧めると「商売をしているようで、そんなことはできない」との答えが多くかえってきます。

なかには檀家がお布施の三倍を税務署に申告提示し、寺側の出納帳記載を信用されなかった等のトラブル記事を見かけることがあります。

一般に税務署が寺の税務調査をおこなうには、税務署側にその理由が発生する。この理由とは、相続税の問題が多いようです。当然、檀家個人の相続に関する問題を調査するのだが、その裏付け調査を寺に行う訳である。

多額の布施を収める檀家とは、寺にとって大切な檀家であり、少々のことなのでから寺側が泣寝入り……しかし追徴課税が5年間遡る、社会的にも信頼の失墜等、簡単な問題で終わらないのです。

多くの場合、寺側の会計の知識不足と檀家側の寺に対する偏見からこの問題が発生することが多いようです。『寺は税金に関係が無いのだから』と檀家側の安易な発想が問題を引き起こす。この問題は寺の会計知識の不足からどうしても不利な状況を作ってしまう。

そこで思い切って領収書を発行することをお勧めいたします。現在、領収書を使用している寺院では、一般の企業、商店などが営業取引に使用している市販のものを活用されているとおもわれますが、できることならば寺院として独自のものを使用したいと考えられるむきも少なくないでしょう。

また「領収書」なる言葉は物の取引や商売を連想されて、宗教活動には向かないとも考える場合も生ずるかも知れません。

山納証・・・

そこで領収書について、いくつかを考えてみましょう。

お寺の宗教活動による収入はいわゆる喜捨なので、改めて支払い証明を求めるとは常識的に考えて無理があると言えます。

そこで、領収書という文字を使用しないで「証」「志納証」「証」「参籠証」「領収証」「山納証」「山納証」という用語を使用することをお勧めいたします。尚、但し書きには「正に山納仕りました。」「正に受納致しました。」「正に山納承りました。」「等と記載すれば幾らか抵抗感が薄れると思われまますし、更に複写式の仕様であれば控えが残り、証拠書類と

しては万全であります。単純に毛筆の縦書き領収書を発行するだけでも市販の領収書を発行するよりも数段受け取る側はとらえかたが変わって参ります。



参 籠 証		No.	
殿			
年月日	人数	宗教活動収入	
年月日	人数	金額	金額
宿泊		経料	
素食		回向料	
酒		納骨料	
ビール		塔婆料	
ジュース		奉納料	
弁当		初穂料	
計		計	

平成 年 月 日
正に山納仕りました
〇〇県〇〇市〇〇町〇〇番地
〇〇山〇〇〇寺

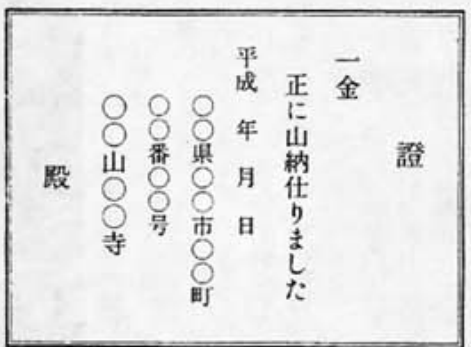
入金伝票の併用

しかし、全ての金銭の受領に領収書を発行するのは少し無理があります。そこで日計票や入金伝票の使用をお勧め致します。

これらの毎日の記載で充分証拠書類になるのです。施餓鬼等の行事に一々領収書を発行したのでは大変、檀家の持参した袋等に金額を記入し、それを保存することもよい方法であります。

切り絵で

領収書を作成
弊社ソネット販売では、



證		No.	
平成 年 月 日			
目 録	金額		
経料		〇〇県〇〇市〇〇町	
回向		〇〇山〇〇〇寺	
納骨		〇〇番〇〇号	
塔婆		〇〇山〇〇〇寺	
代養			
奉納			
計			

右正に山納仕りました。

この寺院の「独自性のある領収書を使用したい」との要望にこたえるべき、一部の寺院に次のような提案をさせて頂いております。それは、「切り絵」を使用するのであります。有名な切り絵の先生と提携し寺院の全景を切り絵にて作成してもらい、これを領収書に刷り込み領収書を作成するのであります。

地方の寺院では直接、絵師が訪問するのは費用と時間が大変なので、好天のおりを見計らって、当社社員か、ご住職ご自身で、フィルム1本分の撮影(24枚×36枚)を行います。ご住職より強調したい点を伺い、下絵デッサンをお送りし、作成するシステムを行っております。

この領収書は大変檀家にも好評であり寺院の独自性を充分にご満足して頂いております。原画は額装にし、施主をつけて本堂に収め、住職にも充分にご満足して頂けます。更に、あるご寺院では、寺院で使用する事務用袋(長4封筒・角2封筒)や使箋や手提げ袋、名刺に刷り込み等々。

このように独自の領収書の作成は色々なアイデアを駆使して頂ければ檀家の抵抗感も、寺院の経理の改革にもつながることあります。コンピュータの使用によってあらゆる寺院事務が改善されることになるが、寺院のおこなう、日頃の姿勢から改革して行かなければ、いかに万能的システムでも活用は難しいものです。

年忌のご案内をすることが大変抵抗がある、商売として捕らえられるなどという時代から、「なぜ住職。年忌の通知をくれないのですか。」と檀家から問われる時代になり、檀家も寺も世代交代へと変化している今日です。当社のコンピュータシステムをお勧めするには、まず基本的な作業をおこなって頂くことが肝心です。

領収書の発行も思い切ってここで踏み切る事をお勧め致します。ソネット販売株式会社 石川 謙

檀信徒にかかわる複雑な情報管理から会計事務まで……寺院管理のすべてを引受けまします

実施中!

現在帳・過去帳の整理および入力代行

ソネットのパソコン・ソフトヘルパー和尚さん

◆全国各地納入時指導◆

寺院総合管理システム

- 檀信徒管理
- 霊名簿管理
- 寺院会計管理
- 会費・布施管理
- 寄付金管理

基本ソフト

対応機種

- 松下版 (Panacom M)
- NEC版 (PC9801シリーズ)
- 富士通 (FMV)
- リコー版 (マイツール)
- シャープ版 (MZ-6556)
- 日立版 (E-32)

※その他の機種も取り揃えておりますのでご相談下さい。

ソネット販売株式会社

本社 〒115 東京都千代田区西ヶ丘3-1-3-106 TEL 03-3909-0774